



## 元 気 通 信

### ～かけ橋～

ブダペスト日本人学校  
学校だより 第8号  
令和2(2020)年11月23日  
校長 松丸 晴美

#### 「ボランティアのかたち」

秋も深まり、朝晩の冷え込みが厳しくなってきましたが、「子どもは風の子」とはよく言ったもので、低・中学年の児童は、休み時間になると元気に外で遊んでいます。

今月は、開催が危ぶまれていたドナウ祭を実施することができ、ほっと胸を撫でおろしました。残念ながら、直前になって、ハンガリーの行動制限が厳しくなったため、児童生徒と教員だけのドナウ祭になりましたが、一人一人の児童生徒が練習の成果を思う存分発揮し、互いに楽しく学び合うことができた良き学習発表の機会になったと思います。

さて、今ではすっかり葉を落とし冬支度を整えた街路樹ですが、前月は、濡れた落ち葉が何層にも路面を埋め尽くし、うっかり足をすべらせることもしばしばありました。日本では、朝早くから子どもたちが登校し、学校周辺の落ち葉掃き清掃をする学校が多くあります。しかし、子どもだけで自由に出歩けない海外ではそうした活動は不可能です。そのような中で校内では、環境福祉委員会の児童生徒の発案で、10月初旬から毎週火曜日の昼休みに、自分たちが遊ぶ校庭の落ち葉掃き活動が始まりました。今ではボランティアの児童生徒も加わって楽しそうに活動し、落ち葉を一か所に掃き集めています。また、10月下旬には、学校近隣に住まわれている保護者の方々が「子どもたちが足をすべらせないように」と声をかけあって、学校前の歩道の落ち葉掃きをしてくださり、大変助かりました。

翌朝は、お隣のV校に通う子どもや保護

者もとても歩きやすいようでした。

日本では、1995(平成7)年の阪神淡路大震災以来、大学生をはじめ、一般の人達のボランティア活動が活発になっていますが、内閣府の調査によると、若者の「ボランティア」に関する意識は、諸外国に比べかなり低い現状があるようです。

厚生労働省のホームページには、「ボランティア」とは、『個人の自発的な意思に基づく、自主的な活動』と書かれています。しかし、自分一人で何かを考え、行動に移すことはとてもハードルが高いです。

学校では、児童生徒に様々なヒントや情報を提供し、児童生徒の中からボランティア活動の企画や提案が生まれ、具体的な活動を通して社会参加の意欲が醸成されるようにしていきたいと考えています。

街では、クリスマスの飾りが店頭に並ぶ季節になってきました。ハンガリーではどのようなボランティア活動や助け合いが行なわれているのでしょうか？ 肌に触れる空気は冷たいですが、温かな思いやりの気持ちは持ち続けたいものです。



ある日の落ち葉掃き